

東北に行く

教授 高橋直美

一昨年、『遠野物語』に登場する作品の舞台でとった写真です。



左の写真は『遠野物語』の語り手・佐々木喜善の旧居前から撮ったものです。すぐそこがもう村はずれになるような小さな集落（現 土淵町山口）で、雪上の足跡は人間のものではなく、動物のもの。『遠野物語』に「山口村より六角牛の方へ入り路のりも近かりしかど、近年この峠を越ゆる者、山中にて必ず山男山女に出逢うより、誰もみな怖ろしがりに次第に往来も稀になり」とあるように、今でも山と隣り合わせの自然豊かな村です。右の写真は六角牛山で、手前にあるのが河童淵に隣接している常堅寺。狛犬ならぬ狛河童がいます。

また、土淵町にはデンデラ野（下の写真）という昔、棄老風習があった高台もあり、



登り口は獣の足跡だらけでした。きっと今でも人より獣のほうが沢山いるのだと思います。このような場所だからこそ、山男や河童など異界の住人たちの話が語られたのでしょう。



上左の写真は早池峰神社（遠野）で、その隣にザシキワラシが出るという元校舎があります。一番左は鹿が群れをなす遠野の山奥から撮った早池峰山。神の山だけあって本当に神々しい姿です。異界には妖怪だけでなく、神やその眷属も住んでおり、遠野の神秘が伝わります。文学は作者や時代背景を知るとともに、その舞台（地域）の文化・風習などを学ぶ必要があります。いろいろな世界に触れるたび、自分の世界もまた広がりますよ。